少年達の逃避行

アイデス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
少年達の逃避行

【Ｎコード】
Ｎ２３４８Ｎ

【作者名】
アイデス

【あらすじ】
大学生。年齢的も精神的にも子供と大人の狭間にいる彼らの心の葛藤を描いた作品です。

プロローグ　第1章

カタカタカタ・・・とパソコンのキーボードの乾いた音が鳴り響く。

蒸し暑い夏の夜中2時。

僕はいつも、本当にいつもパソコンの前にいる。

何をするわけでもない、ただ何回も見なれたお気に入りの動画をみているだけだ。

お笑い芸人の動画、昔好きだったゲームの実況、ジャイアンツの試合動画、掲示板のコピペにバイト情報。

よくある暇つぶしだ。

そんな無意味な日常に食い潰される残された僕の時間。

時間は有限なんだ。

だから限りなく有効に使えと小学校の先生がよく言っていた。

ほとんど実現不可能な究極の金言。

大体の人はやらなきゃいけない面倒なことは後回しにしてどうでもいいことをして休日をつぶす。

今の僕なんかまさにそうだ。

実際、せっかくの大学の２カ月超の夏休み、僕は何もせずここに至る。

僕はもうこの時既に大学２回生だった。

プロローグ　第2章

大学時代は人生で1番楽しい時よ。だから友達をいっぱい作ってサークルに入って女の子と遊びに行って精一杯楽しみなさい。

去年の入学式の日の朝、母が言った言葉だ。

まるで、小学生の子供に掛ける言葉だな、とおかしくなって小さく笑ってしまった記憶が未だに頭の片隅にこびりついて離れない。

・・・そしてその日から1年以上たった今でも毎日のようにそのような意味のフレーズを口にする。

早稲田大学に在籍し、色々なサークルに部長や幹事として皆をまとめあげ、その仲間たちと終電ギリギリまで飲み会やコンパ。休日には優しくてイケメンの彼氏と街へ出かけ、にも関わらずちゃっかりと友達主催の合コンなんかに参加し、試験前には誰かの家に集まって試験対策。長期間の休みには海に行ったり旅行に行ったり・・・。

まるでリア充のお手本のような生活だ。

そんな母からすれば今の僕の生活はちょっと信じられないものなのだろう。

プロローグ　第3章

僕もそういう大学生活に興味がなかったわけではない。

いや、浪人まで経験した僕にとってそういう大学生っぽい大学生に対する憧れは人よりもずっと強かった。

緑に彩られた広いキャンパス、伝統が刻まれた真っ白な講堂や座っても泥がつかないようにとちょうどいい具合に刈り取られた昼食にうってつけの芝生やそこにポツンと置かれた青いベンチ、そのすぐ後ろには待ち合わせ場所の定番である大銀杏。

単調な浪人生活に飽き飽きしていた僕にとって彼らは目指すべき目標であったし、自分のしていることが見当違いではないと再認識させてくれる道標でもあった。

大学に合格した時の喜びはいまでも鮮明に記憶の中にある。

当時の合否発表は一昔のような正門の前のバカでかい掲示板に受験番号を記載するというような残酷なものではなく、ネットの合否発表サイトに自分の名前と生年月日、それに受験番号を入力すれば０・５秒で自分の合否が弾きだされるというものだった。

たった０．５秒でだ。

今から考えると僕は自分のあの予備校の教室の薄暗い蛍光灯の下で過ごした１年間が一瞬のうちに四角い無機質の光の箱に判定されるという方がよっぽど残酷な気がする。

しかし試験の結果に自信のなかった僕にとってその現代風な発表方法はとにかくありがたかった。

昔テレビで何度か目にした覚えがある。

正門の掲示板で貼り出された大きな紙を見て、大騒ぎして友達と抱き合う者、家族に祝福される者、待ち構えられていたその大学のラグビー部かアメフト部かなんかに胴上げされる者――――――はたまた陰で顔を覆って泣き崩れる者、うつむいて暗い顔で家路につく者。

受かる人間がいればその数だけ落ちる人間もいるのは当然のことだが、その鮮やか過ぎるコントラストはテレビのブラウン管を通しても僕の身を切るようにひしひしと伝わってきた。

プロローグ　第４章

実は、現役時代、僕はその絵の中にいたことがある。

もちろん、その絵でいえば、光ではなく陰を構成する１要素として、だ。

僕は浪人時代大阪府立大学を受験したわけだが、にべもなく落とされてしまった。

僕自身受ける前から落ちることしか考えられないほど絶望的な状況だったので不合格という事実には割と仕方ないと割り切っていた部分もあったのでそれほど落ち込むことはなかったが、問題はその大学が今時にしては珍しく学内掲示という合格発表の方法をとっていたことだった。

正確にいえば、ネット発表と両方あったのだが、当時受験というものに全く真摯でなかった僕はそれを知るはずもなかった。

３月にしては肌寒く何重にも重なった分厚い雲がことごとく光を殺し、そのせいで夕方と見紛うほど暗かったあの空の下で、母と共に大学まで重い足を懸命に運んだ。

どうせ落ちてるんだから行くだけ無駄だという言葉を口の中で昇華させて。

日頃からほとんど勉強もせず、参考書を買うと言ってお金をもらい、そのお金でゲームを買ったりカラオケに行き、自習室に行くからと言って駅前のちょっと洒落たカフェのような所で貴重な時間を無駄

にしてだべっていたそんな僕に毎日早起きして弁当を作ってくれ、そして今真剣な表情をして僕の隣を歩いている母を見ると、余計に胸が動悸で苦しくなった。

長い坂道を登り終えて校門に着くと、外から歓声が聞こえてきた。

目を凝らしてみると3人ぐらいの女の子が掲示板を指さしながら抱き合ってなにやら叫んでいる。

そこへ群がる、おそらく待ち構えていたであろうアメフト部。

掛け声とともに始まった胴上げを僕は茫然と眺めていた。

そしてそれからのことはよく覚えていない。

覚えているのは、母が気を使って近くのおいしい定食屋に連れて行ってくれたこととそこで母が口にした、もう1年あるんだから大丈夫よ、あんたならきっとやれる、といった意味合いの言葉だけだ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2348n/

少年達の逃避行

2010年10月10日17時09分発行